

新学習指導要領の正しい理解



大城賢
琉球大学教育学部
koshiro@edu.u-ryukyu.ac.jp

アウトライン

1. 明確・詳細な目標設定

学びの地図としての役割に期待

2. 「主体的, 対話的で深い学び」

言語活動の(再)定義に共感

今、一番大切にしたいと思っていること

- 外国語の学習は**言葉の学習**であること
- 言葉の大切な役割は**自分の考えや気持ち**を伝えること
- 言葉は**人と人をつなぐ役割**があること
- 教室は**言葉を学ぶ場**であること, そして実際に**使う場**であること
- 英語は**気持ちが9割**であること
- 英語は**矯正から共生**へと考えること
- 外国語教育は**教育の一環**であること

小学校で特に大切にしたいこと

- 初めて外国語に触れる段階である小学校においては、母語を用いたコミュニケーションを図る際には意識されていなかった、相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようしたり、もっている知識などを総動員して他者に外国語で自分の思いを何とか伝えようとする体験を通して、日本語を含む言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを改めて感じる事が、言語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で重要であり、言語への興味・関心を高めることにつながると考えられる。（「学習指導要領（外国語活動）」p.12）
- 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、＜中略＞友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行うこと。（p.43）

また、高学年の外国語科の目標を踏まえると、**広く言語教育として、国語科をはじめとした学校における全ての教育活動と積極的に結び付ける**ことが大切である。

高学年の外国語科において、日本語とは異なる英語の音声や基本的な表現を用いてコミュニケーションを図ることは、**言葉の大切さや豊かさに気付いたり、言語に対する興味・関心を高めたり、これを尊重する態度を身に付けたりすることにつながるものであることから、国語科の学習にも相乗的に資するように教育内容を組み立てることが求められる。**

(「学習指導要領(外国語)」p.125)

「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方
 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

外国語科の目標			
	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、 コミュニケーションを図る素地 となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、 コミュニケーションを図る基礎 となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、 簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る 資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(知識・技能)	(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ ようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、 読むこと、書くことに慣れ親しみ 、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる 実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能 を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能 を身に付けるようにする。

<p>(思考力・判断力・表現力等)</p>	<p>(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p>	<p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p>	<p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>
<p>(学びに向かう力・人間性等)</p>	<p>(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

5つの領域別の目標			
	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
聞くこと	<p>ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。</p> <p>ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分</p>	<p>ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事</p>	<p>ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉</p>

明確・詳細な目標設定

学校段階別目標の明確化

	<p>かるようにする。</p>	<p>柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。</p>	<p>えることができるようにする。</p>
読むこと		<p>ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。</p> <p>イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。</p>	<p>ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。</p>
話すこと [やり取り]	<p>ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。</p>	<p>ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。</p> <p>ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p>
話すこと [発表]	<p>ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p>	<p>ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p> <p>イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。</p>

	<p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p>	<p>ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p>	<p>にする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</p>
<p>書くこと</p>		<p>ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</p>

みんなが同じ地図を見る

学習指導要領



学びの地図

指導主事の先生

専科の先生

教科書会社・
教材会社

小学校の先生

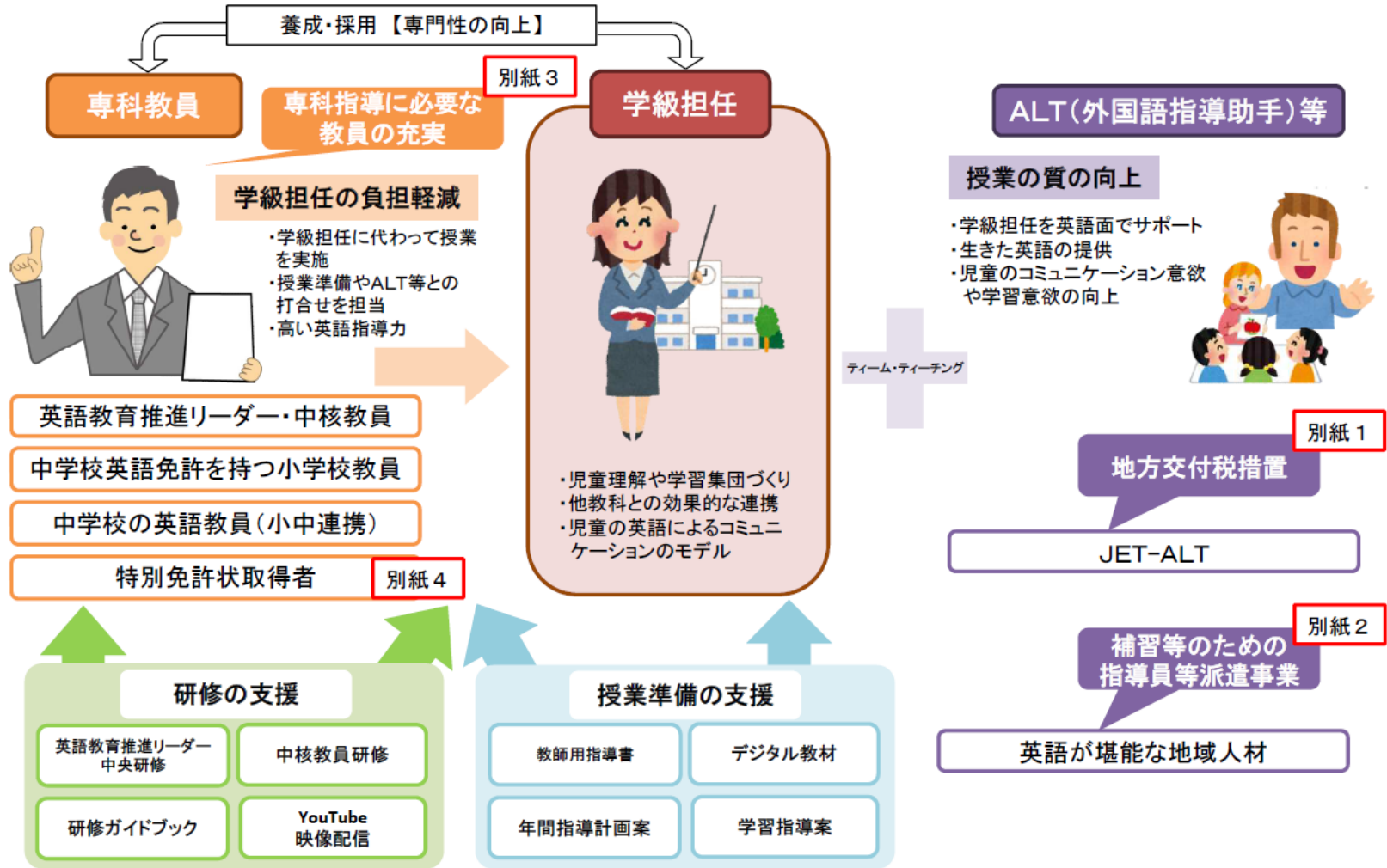
中学校の先生

高校の先生

大学の先生

保護者

小学校における外国語教育の指導体制について



「主体的な学び」とは

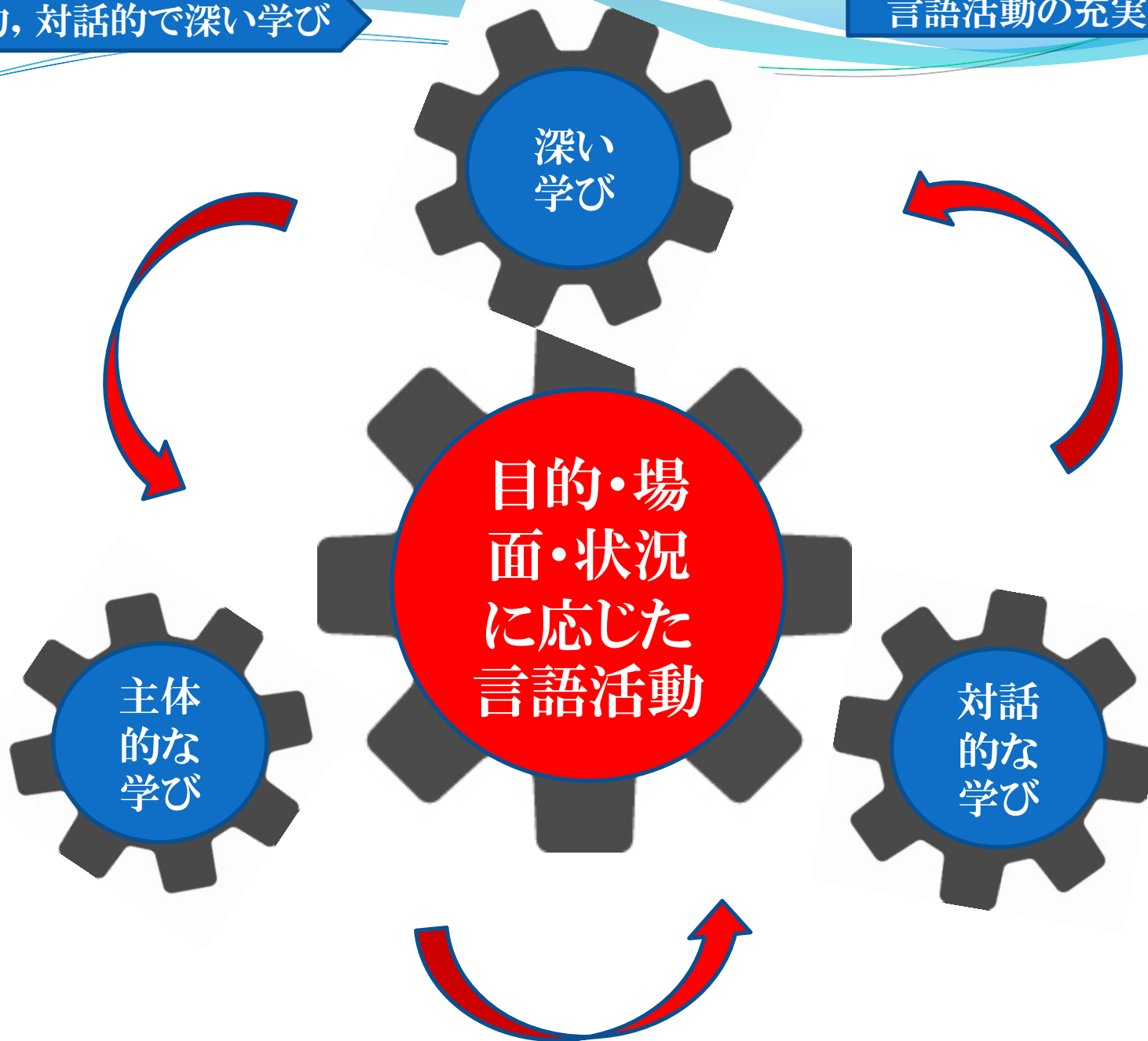
- 「主体的な学び」の過程では、①外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたって生かそうとするかについて、②見通しを持って粘り強く取り組むとともに、③自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自ら学習のまとめを振り返り、次の学習につなげることが重要である。このため、**コミュニケーションを行う目的・場面・状況等**を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。(中教審答申)

「対話的な学び」とは

- 「対話的な学び」の過程においては、他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション(対話や議論等)の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、**コミュニケーションを行う目的・場面・状況**に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。(中教審答申)

「深い学び」とは

- 「深い学び」の過程については、言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを話したり書いたりする中で、外国語教育における「見方・考え方」を働かせ思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機づけ等がされる「深い学び」につながら、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、**コミュニケーションを行う目的・場面・状況**等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。
(中教審答申)



「外国語活動」及び「外国語」における言語活動

- 外国語活動や外国語科における言語活動は、記録、要約、説明、論述、話し合いといった言語活動よりは基本的なものである。学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというところではない。言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。

文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」, 2017, p.23

「外国語活動」及び「外国語」における言語活動

実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。つまり、英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動は、外国語活動や外国語科においては言語活動とは言い難い。一方で、英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動も言語活動とは言い難い。例えば、発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動は、言語活動ではなく、練習である。練習は、言語活動を成立させるために重要であるが、練習だけで終わることのないように留意する必要がある。

(文部科学省『外国語活動・外国語研修ガイドブック』2017, p.23)

言語活動の充実
(今回の改訂のポイント)

本物のコ
ミュニケー
ションを教
室へ

伝統的な文法指導

伝統的な
文法訳読
式からの
脱却



目的, 場面, 状況を明確にした言語活動
(コミュニケーション活動)

意味を中
心に, 文
法は後か
ら

伝統的な指導法

伝統的な教授法は・・・

文法や語彙を学習し練習した。そうしておけば、
使う必要が出てきた時、英語を使うことができるだろう・・・

でも、できなかつた・・・

伝統的な指導法

You have a pen.
Do you have a pen?
Yes, I **do**. No, I **don't**.

Do you have a pen?
a pencil?
a book?
a bag?
a desk?
a chair?

一般動詞の肯定文
を疑問文にする時は
Doを文の前に置きます
…Doで聞かれたら
doで答えます。

では, pen を入れ
換えて練習してみ
ましょう…

Do you have a pen? と聞かれたら何と答える？

Do you have a pen?

どんな場面で使う
か考えてみてくだ
さい…

Here you are.

I am sorry.

Do you have a pen?

I am sorry.

Do you have money? と聞かれたら何と答える？

Do you have money?

どんな答えになるか、考えてみよう。

和泉伸一『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』
2009 より

目的や場面，状況などの重要性

文は，「目的や場面，状況など」の中で初めて意味を持つ。「目的や場面，状況など」がないところでは，単語や文法が本当の意味で分かったとは言えない。

学習指導要領で繰り返されているフレーズ

目的や場面，状況など

[目的や場面, 状況など]が設定されると単語や文法は理解されやすい。[目的や場面, 状況など]と切り離されて語彙や文法が教えられても使えない。

小学生は教えられてもいない単語や文法をどうして理解できるのだろうか？

それは、いつも特定の場面の中で英語が使われているから

外国語教育の段階的指導

I like . . .

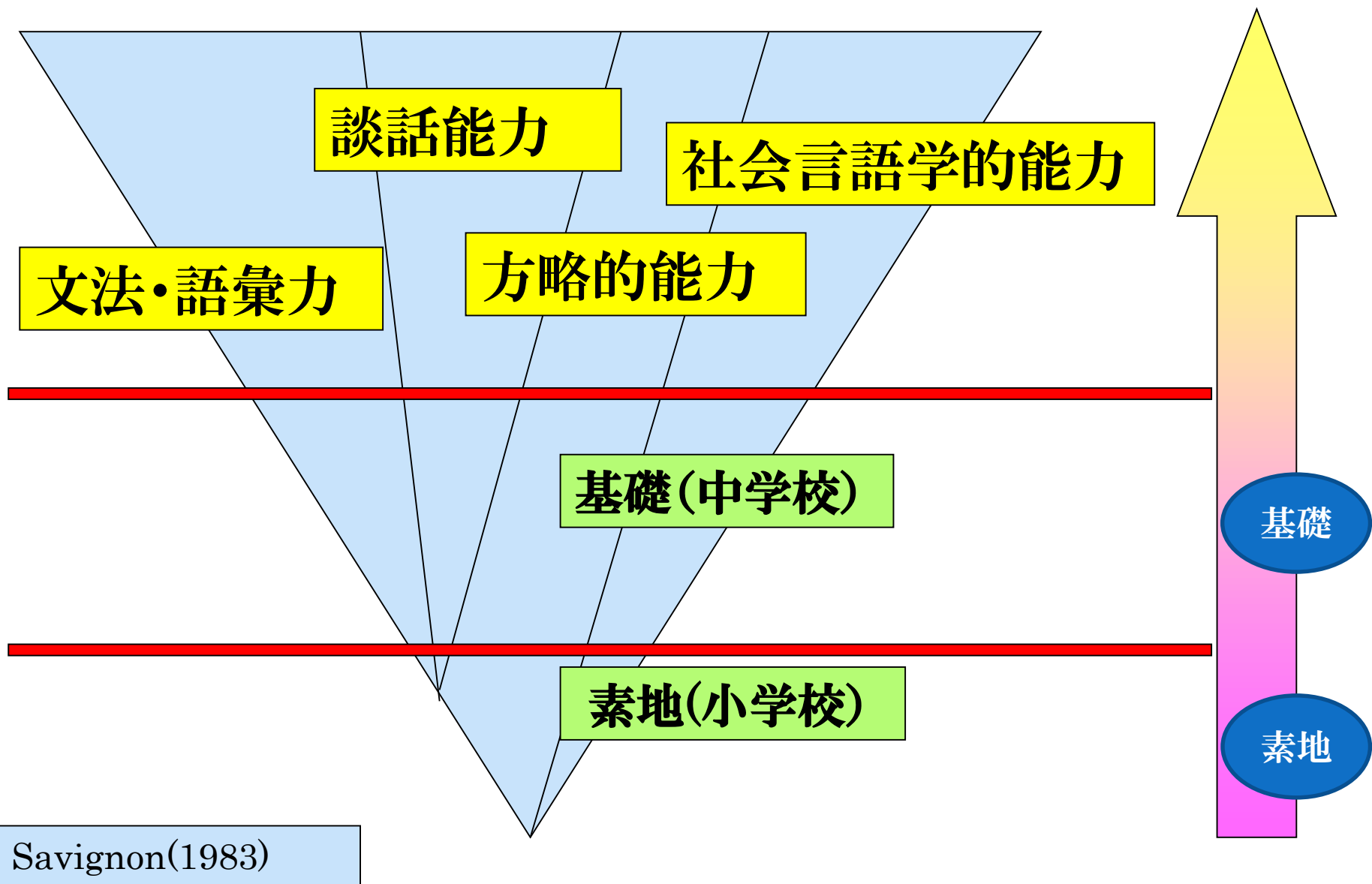


コミュニケーションが先、その後に語彙や文法を学習する。

素地とはなんですか？

コミュニケーションのfoundation(素地)を養うというのは、語彙や表現が不足している児童が、ジェスチャーなどの様々な手段を使ってコミュニケーションを図る体験をすること！

The components of communicative competence



目的や場面，状況などを踏まえて文法等を導入

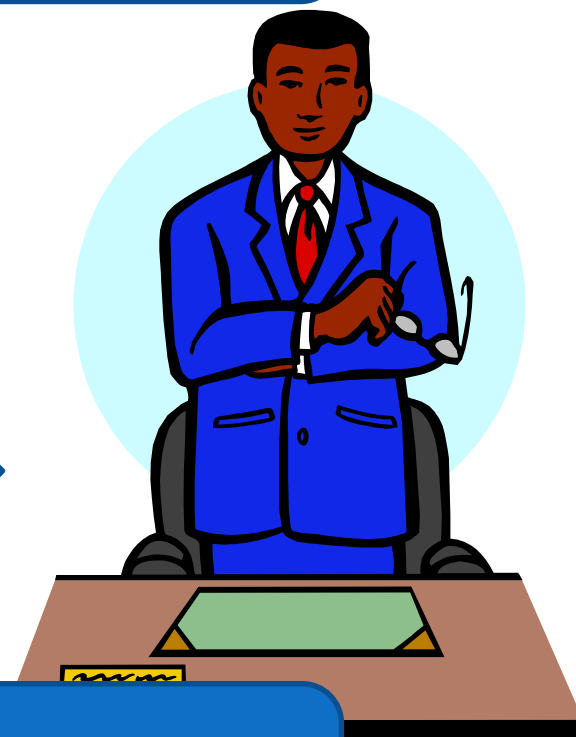
文法・語彙

目的

場面

状況

英コ教師



英語コミュニケーション教師



児童・生徒という呼び名をやめて

Co-Learners

こちら！

Thank you very much!

Pressure!!!
(プレッシャー)

Pleasure
(プレジャー、楽しみ)

研究室HP <http://kenoshiro.net/>